

# 令和二年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

## 「税が助ける私たちの生活」

西大和学園高等学校 一年 山下 真由子

今年の三月頃から、日本で新型コロナウイルスが流行している。四月には緊急事態宣言が発表され、その影響で様々な業種、特に飲食店などが休業を余儀なくされている。そんな中、私はこのような発言をよくニュースで耳にする。

「休業要請で収入がなくなったから、給付金が欲しい。」

という声や、

「給付金の額が少ない。」

という、声です。私はこの発言をきいて、税金は自ら払いたいという人は少ないのにもかかわらず、税金からまかなわれる給付金や補助金は多くの方が欲しがるとも、少し不思議に思いました。もちろん給付金を必要とする人が日頃きちんと納税をしていて、生活をするためには本当に給付金が必要であるのだと思います。しかし、納税をしようという気持ちと給付金をもらいたいという気持ちは同じでしょうか。給付金だけではありません。自分が新型コロナウイルスにかかったときの治療費、検査費、たくさんの方が税金でまかなわれていますが、はたして私たちは納税する態度と、税の恩恵をうけるときの態度が同じでいられているのでしょうか。私は違っていると思います。なぜなら、昨年、消費税が8パーセントから10パーセントに上がったとき、どれほどの人数の国民が賛成しただろうか、と考えるからです。このような事態になって国からお金をもらうという形で、税金が私たちの生活を助けることが顕著にわかるようになりましたが、前から私たちは日々税金に支えられているのです。

私たちは、税金が日々の生活を助けることがあたり前になってしまっているのではないのでしょうか。この事態だからこそ感じる事ができた税金のありがたみから、税金を私たちが日々納める意味や、税金の使い道などを改ためて深く考え、税金が私たちの生活を助けることを感じ、積極的に納税していくべきだと思います。